

I 施肥低減に関する基本的な考え方

施肥低減については、以下の基本的な考えに基づき行うものとします。

1 施肥量を減少又は施肥効率を高める方法（環境に配慮した施肥法）

（１）土壌診断に基づく、土壌に蓄積したリン酸、カリの活用による施肥低減について

従来、土壌診断は、塩基バランスの乱れによる生理障害の回避や、高品質・収量向上を目的に実施されており、リン酸、カリ等の減肥を目的としては活用されておりました。このため、本マニュアルでは、作目別にリン酸やカリなどについて管理目標の上限値を設定しておりますので、必要以上の肥料を施用しないよう適正な施肥量による管理を行うとともに、地域で低投入型の施肥設計を検討してください。

（２）施肥低減に向けた堆肥等有機物の活用

堆肥等有機物は、物理性の改善等の土づくりを目的に施用され、堆肥中の肥料成分は考慮されずに施用されてきました。このため、家畜ふん堆肥等の施用によるリン酸、カリが土壌に蓄積している事例が多いことから、肥料成分を有効活用するとともに、堆肥等有機物を貴重な国内の肥料資源として、積極的に活用してください。

（３）家畜ふん堆肥以外に化学肥料を低減するための国内資源の利用

- ア 緑肥作物の利用
- イ 食品残渣など国内資源の利用
- ウ 有機質肥料（指定混合肥料等を含む）の利用
- エ 低成分肥料（単肥配合を含む）の利用
- オ 水稻栽培における収穫後の稲わらのすき込み など

（４）施肥量を低減させる技術の導入

- ア 肥効調節型肥料の利用
- イ 局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥（畝内施肥）、灌注施肥等）
- ウ 育苗箱（ポット苗）施肥の利用
- エ 可変施肥機の利用（ドローン等の活用を含む）
- オ 肥料施用量の少ない品種の利用
- カ 養液土耕栽培、マルチ栽培の導入 など

（５）肥料費を低減する方法

- ア 価格の高いりん酸や加里の成分を低減した低成分肥料（単肥配合含む）の活用
窒素の削減は生育に大きく影響するので、りん酸、加里肥料を中心に削減する。
- イ 肥料の流通経費削減
フレコン流通、銘柄の集約など
- ウ 単価の安い銘柄の利用